

スマート農業の利点学ぶ

県内の農産物の物流実態やスマート農業への理解を図る研修が18日、秋田市で開かれた。秋田北鷹高校生物資源科3年生23人と増田高校農業科学科1～3年生37人が参加した。

秋田市新屋の県立スケート場では、開催中の農業機械大展示会を見学し、トラクターや田植え機に試乗した。

増田高の生徒は、衛星利用

秋田北鷹・増田高生

測位システム（GPS）を搭載し、自動運転が可能な田植え機に試乗。中川原慶大さん（2年）は、学校の授業で田植え機に乗り、苗をまっすぐ植えるのが難しかったという。「自動操縦の田植え機はふれにくく、農家も楽に作業できると思った」と感動した様子だった。

農業機械大展示会を見学した秋田北鷹高の長崎和音さん

秋田市で研修

（3年）は「ボートの形をした農業散布機の話聞いた。田んぼの中を走らせると葉が広がるのがすごいと思った」と話した。

このほか両校の生徒たちは、県青少年交流センター・ユースパルでJA全農あきたの担当者から、全農の役割や農産物の流通実態などを学んだ。

（板橋美羽）



自動操縦の田植え機に試乗する増田高の生徒



農業機械大展示会を見学する秋田北鷹高の生徒